

診療科紹介

自治医科大学附属病院は、年間約9,000（麻酔科管理約7,500症例）の手術症例があり、心臓手術約400例、帝王切開約550例、小児外科500例以上を含む小児約1,500症例と内容も豊富です。研修医にとって理想的な研修のできる全国有数の病院であり、さらに優秀なスタッフが教育体制を万全に整えております。

臨床研修到達目標

主に予定手術の麻酔を担当しながら、下記の目標に到達することを目指す。なお希望者は麻酔科専門医取得を念頭に、研修内容を後期研修にリンクさせることも可能である。

（研修内容の概略は[こちらの図](#)を参照）

・ 一般目標（GIO）

1) チーム医療を実践できる。2) 安全に麻酔器を使用できる。3) 麻酔薬の作用を理解し、適切な使用を判断できる。4) オピオイドの作用機序を理解し、オピオイド抗薬の適切な使用を判断する。5) 筋弛緩薬と神経筋遮断拮抗薬の薬理作用を理解し、使用できる。6) 局所麻酔薬の作用機序や毒性を理解し、適切な局所麻酔薬を選択できる。7) 適切な術前検査を理解し、術前評価できる。8) 各モニターの基本原理を理解し、適切な使用を判断できる。9) 適切な気道確保方法と挿管困難を判断し、適切な準備ができる。抜管を判断できる。

・ 行動目標（SBO）

1) 良好なコミュニケーションを行い、患者中心の医療を貢献できる。2) 閉鎖循環麻酔の基本原理を理解し、麻酔器の始業点検項目を実施できる。3) 各麻酔薬の利点と欠点を比較し、病態に応じた麻酔方法を選択できる。4) 心臓生理、心筋酸素需給バランスへの影響の概略を説明できる。5) 呼吸調節の概略と呼吸調節への影響を説明できる。6) 肝臓／腎臓毒性について説明できる。7) オピオイド受容体の分類と作用、その分布を説明できる。麻薬依存症の危険性について説明できる。8) 筋弛緩薬の代謝、作用、禁忌を説明できる。神経筋遮断拮抗薬を正しく投与できる。9) 局所麻酔薬のおおよその効果発現時間、作用時間について述べることができる。局所麻酔薬の極量について説明できる。10) 合併症を有する患者の術前評価を正しくできる。術前検査の評価ができ、その意義について説明できる。11) モニタリングの基本理念と各測定方法の基本原理について説明できる。適切な使用と測定ができる。12) 挿管困難症や気道確保に影響を及ぼす病態を列挙できる。気道が正常な患者でマスク換気ができる。エアウェイ など補助器具を用いて換気ができる。気管挿管の適応を説明でき、気道が正常な患者で気管挿管できる。挿管困難の予測因子で列挙できる。